

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 77 人

② 算数 77 人

5 留意事項

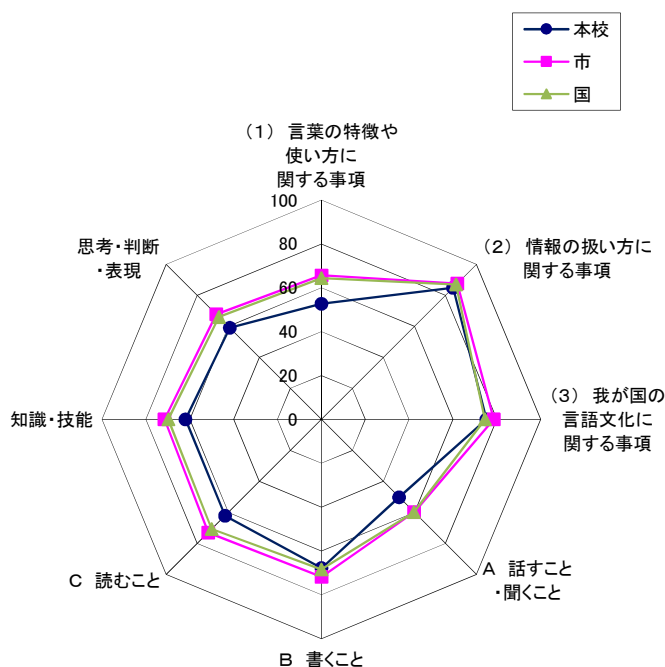
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	52.7	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	84.9	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.3	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	50.2	59.9	59.8
	B 書くこと	67.8	71.8	68.4
	C 読むこと	62.1	72.9	70.7
観点	知識・技能	61.9	71.5	69.8
	思考・判断・表現	59.1	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

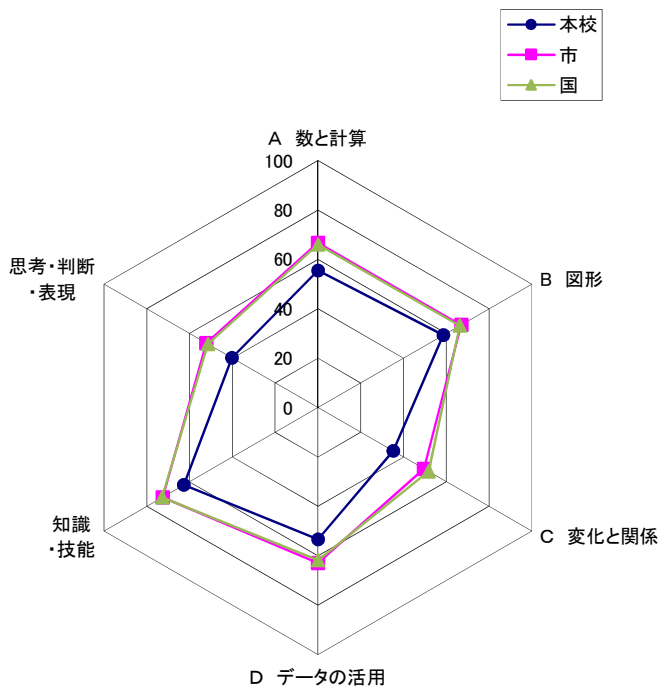
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「話し言葉と書き言葉との違いに気付く」問題の平均は、県よりもやや高く、話をするとき相手に伝わりやすい話し方はおおむね理解できていると考えられる。 ●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」問題では、県の平均を大きく下回った。	・漢字を学習する際は、漢字の書きや読みが正しく定着するよう小テストを実施する。また、意味や用法を併せて覚えらるような漢字練習の方法を取り入れ、継続して取り組ませることで、文章を書く際に既習漢字を用いて書けるようにする。 ・文章を読む際に、主語や接続詞を意識できるようにするために、授業で触れる機会を増やしたり、小テストを実施したりする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使えるか」の問題の正答率は、県の平均を下回ったものの、8割を超えた。	・情報の扱い方には、文章で書き表す以外にも図を使う方法もあることを確認し、多様な表現の仕方に慣れさせる。 ・国語だけでなく、算数や社会の学習でも、図や表の読み取りを行い、情報と情報の関係について考える時間を確保する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○「読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付く」問題では、平均が7割を超え、国の平均よりもやや上回った。	・今後も、筆者の伝えたいことを捉えられるようにするために、短い文を読んで要約したり、小見出しを付けたりする活動を繰り返し行う。
A 話すこと・聞くこと	○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする」問題の正答率は国や県の平均よりも約10ポイント上回った。 ●「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝えあう内容を検討できるか」をみる問題の正答率は、県の平均を18ポイント下回った。	・伝えあう活動を行う際には、今回は「誰に」「何を」「何のために」伝えるのかという目的をはっきりさせ、児童が見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ・友達の考えを聞き、伝えたいことは何かを考える時間を確保し、話のポイントを意識させる。
B 書くこと	○メモの図から、どのように書きたいことを考えたのかを選ぶ問題の正答率は、9割と、よく読み取れていたことが分かる。 ●書かれているメモを基に、条件に合わせて文章を書く問題では、正答率は国や県の平均より10ポイント以上下回った。作文をすることへの苦手意識が見られる。	・意見などを書く活動では、自分の考えを明確にできる時間を確保する。その上で意見と感想を区別して書けるよう、書き表し方を提示し、自分の考えを目的や意図に応じて書けるようにする。 ・国語以外の教科でも、読み手の立場に立った文章を書く学習活動を取り入れ、文章を書くことに慣れるようにする。
C 読むこと	●「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」問題の正答率は国や県の平均より10ポイント以上下回った。 ●「人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考える」問題の正答率は国や県の平均より10ポイント以上下回った。登場人物の心情を考えながら読むことに課題が見られた。	・物語文の読解では、場面の様子や情景などの細かい描写も丁寧に取り上げ、物語全体の見通しをもたせながら登場人物の心情や相互関係を読み取ることができるようになる。 ・単元の終わりには、物語文や説明文を読んで心に残ったことを書く活動を取り入れる。その際には根拠の理由を叙述を踏まえて書かせるなど、条件を踏まえて自分の考えを書くことができるようにする。

宇都宮市立新田小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.5	66.7	66.0
	B 図形	58.6	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	35.2	49.6	51.7
	D データの活用	53.4	62.9	61.8
観点	知識・技能	62.7	72.6	72.8
	思考・判断・表現	40.3	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○「数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる」問題では、正答率が約9割であった。</p> <p>●「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率は、県の平均正答率を17.5ポイント下回っている。</p> <p>●「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、県の平均正答率を12.5ポイント下回っている。</p>	<p>・児童が立式の意味を考えるとともに、説明をする活動を取り入れる。</p> <p>・除数が小数である場合の計算の仕方を確認し、繰り返し練習する。</p>
B 図形	<p>●「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」問題の正答率は、県の平均正答率を11.9ポイント下回っている。</p> <p>●「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率は、県の平均正答率を8.7ポイント下回っている。</p>	<p>・児童が体積の求め方をより具体的に捉えられるようにするために、立方体の特徴を視覚的に押さえるようにする。</p> <p>・具体物や半具体物を用いて、図形の特徴を視覚的に捉えるとともに、角柱の底面と側面の関係性を考えられるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>●「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題では県の平均正答率を14.4ポイント下回っている。</p> <p>●「速さの意味について理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、県の平均正答率を15.8ポイント下回っている。</p>	<p>・答えを導き出すだけでなく、なぜそう考えるのかを言葉や数を用いて記述する活動を取り入れる。</p> <p>・速さを求める際に、何に着目すればよいか、ポイントとなる数や語句に下線を引くよう指導する。</p>
D データの活用	<p>●「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる」問題の正答率は、県の平均正答率を14ポイント下回っている。</p> <p>●「二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、分類整理することができるかどうかをみる」問題の正答率は、県の平均正答率を8.5ポイント下回っている。</p>	<p>・児童が実際に二次元表をつくる活動を通して、二次元表の見方や仕組みについての知識の定着を図る。</p> <p>・与えられたデータから、必要なことを読み取ることができるよう、情報から分かることを自分の言葉で書かせ、表現できるよう指導する。</p>

宇都宮市立新田小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」の設問について、肯定的な回答をした児童の割合は98.8%で、国よりも2.1ポイント上回った。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」と肯定的な回答をした児童の割合は94.9%で、助け合うことの大切さを理解し、実践しようとしていることが分かる。日常的な指導のほか、「いじめゼロ集会」等の学校行事を高学年児童が中心となって開催することにより、児童自身が「いじめ」について真剣に考え、いじめはいけないという意識を向上させていることが分かる。今後も「いじめはしない・させない・許さない」という合言葉のもと、指導・支援を継続していく。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問について、肯定的な回答をした児童の割合は82%で、国と比べて6.2ポイント上回った。今後も引き続き、多様な考えがあってもいい、失敗したり間違えたりしても大丈夫だと、互いを認め合い安心感のある学級経営をしていく。

●「自分には、よいところがある」の設問において、肯定的な回答をした児童の割合は82%で、国と比べて2.1ポイント下回った。「先生は、よいところを認めてくれる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」という設問では、9割以上の児童が肯定的に回答していることから、自己肯定感が高く、意欲的に学校生活を送っている児童が多いと考えられる。今後も、継続して達成感や自己有用感ももてる教育活動を推進するとともに、家庭とも連携を図りながら、児童の指導・支援を行っていきたい。

●「学校以外に1日に勉強をする時間」は、平日が「30分以上1時間より少ない」と回答した児童が32.1%、休日は「1時間より少ない」が43.6%と最も多かった。また、「全くしない」が平日で9%、休日で16.7%であり、家庭学習の習慣が十分身に付いていないことが分かる。改めて自主学習を実施することの意義を確認し、宿題だけでなく、進んで自主学習に取り組むよう励ましたり、頑張っている児童の取組を積極的に紹介したりして意欲喚起を図っていく必要がある。

●「あなたの家には、おおよそどれくらいの本がありますか」の設問については、「26～100冊」と回答した児童が30.8%、「0～10冊」が23.1%で、家庭における読書環境に大きな差が見られた。また、「新聞を読んでいますか」の設問では、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童は9割を超えていた。現在、家庭におけるデジタル化が進み、新聞を取っていない家庭も多いので、図書室に置いたり、教科学習の中で活用したりして関心を高めていきたい。今後も継続して読書指導の充実を図っていく。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか」の設問について、肯定的な回答をした児童の割合は、75.6%であり、国や県よりも下回った。今後、本時の学習内容が次の学習やほかの学習につながっていくことを意識し、振り返る視点をより明確にして指導していく。

●「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答割合は64.1%、「算数の勉強は好きですか」の肯定的回答割合は61.5%であり、国語・算数ともに約4割の児童が苦手意識をもっていることが分かる。しかし、「国語・算数の勉強は大切だと思いますか」の設問では、国語が96.2%、算数が100%であり、関心は低いが、その重要性は認識していることが分かる。今後も学習課題の設定の工夫を行い、問題解決型学習を積極的に展開し、児童の一つ一つの取組を認め、自信がつくように指導・支援を行っていく。

●「英語の勉強は好きですか」の肯定的回答割合は69.3%であるが、「英語の勉強は大切だと思いますか」の肯定的回答割合は93.6%であった。このことから英語への関心は高いとは言えないが、多くの児童がその必要性は認識していることが分かる。今後、日常生活と関連させた課題を設定し、ALTとの連携をより図ったり、校内研修を充実させたりしながら、児童が将来生きていく上で英語の必要性を感じると同時に、関心を高めていけるような授業を実践していく。

宇都宮市立新田小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着	全学年を通して、学習した内容を定着させるために、基礎的な問題の練習を繰り返したり、授業の始まりや終わりに確認したりしている。また、AIDリルを利用して、習熟を図っている。	国語、算数ともに、知識・技能を問う問題では、市を下回っている。国語の漢字を書く問題では無回答率が市よりも高い。「授業の内容はよく分かりますか」の質問には約8割が肯定的回答をしている。
思考力・表現力の育成	考えをまとめる際には、考える視点や、書く視点を提示し、1人で考える時間を確保している。「まとめ」や「振り返り」を書く際に、本時で習った言葉を必ず入れるなどの条件を提示し、簡潔な短文でまとめるなど、書くことに慣れるようにしている。	「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問には75.7%の児童が肯定的回答をしている。国語、算数ともに「解答を文章で書く問題」を7割以上の児童が最後まで書こうと努力していたが、国語で約4割、算数で約2割の児童が、解答時間が足りないと回答している。
学び合いの充実	1人1台端末を活用したり、ペアやグループ活動を取り入れたりするなど、互いの考えを共有する活動を設定し、話し合いを活性化できるようにしている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問の肯定的割合は、全国とほぼ同じである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
知識・技能を活用する問題や、根拠を示して説明したり、考えを書いたりする「記述」の問題に課題が見られる。	自分の考えを文章で表すための語彙力と作文技能の向上	・発達段階に応じて、条件を提示した短作文をする機会を設ける。 ・文の書き方や段落の構成などの例を掲示したり、書いた文章を互いに読み合う活動を取り入れる。 ・多様な種類の文章を読む機会を意図的に設け、たくさんの言葉と出会うようにする。